

一般質問(要旨)

圏央道の整備見通しは
開通目標の堅持と重点的な整備を
働きかけていく

半村登議員(自民県政クラブ) 圏央道については、県内区間の早期全線開通を国に働きかける一方、境インターチェンジから西側の工事が進んでいるので、当面の目標として東北道への接続を早期に実現してはどうかと考える。圏央道の整備見通しと今後の対応は。

議員 本県商工業の振興を図る上で、商工会の体制の充実が必要であるが、職員の退職者不補充のほか、平成二十二年度からは人件費補助を削減されることになっている。平成二十一年度はその内容を再度検討することだが、平成二十二年度以降の商工会に対する支援は。

知事 圏央道の整備効果が最大限に発揮されるためには、常磐道や東北道などと相互に連絡し、早期に一体的な高速交通ネットワークを形成することが極めて重要である。開通目標を守り、必要な予算を確保して重点的な整備がされるよう、今後とも国に強く働きかけていく。

商工労働部長 職員の余剰が生じている商工会との人事交流を図りながら、一部新規採用による欠員補充を行うとともに、補助金も当初の削減率から緩和することとした。今後とも、商工会が円滑な経営指導などを行えるよう、必要な支援に努めていく。

議員 養豚農家は、生産費の増大や販売価格の著しい下落など、厳しい経営環境にさらされている。輸入飼料高騰などの影響を極力抑えた経営体制の構築や、肉豚価格補償制度への加入率を高めていく必要がある。今後の畜産経営安定対策は。

(ほかに、圏央道開通を契機とする地域振興方策、境西高校跡地などへの特別支援学校の整備、交通事故防止対策なども質問)

農林水産部長 肉豚価格補償制度は、基金造成に係る生産者負担が削減されたので、その新たな制度を周知し、加入促進に努める。また、できる限り国産飼料を確保するため、飼料用米を利活用する耕畜連携モデルを育成するなど、安定した畜産経営の確立に向けて取り組んでいく。



整備の進む圏央道

少子化対策と子育て支援策の充実を
経済的負担軽減と
保育サービスの充実が重要

高崎進議員(公明党) 第二子に視点をあてた子育て支援、待機児童解消、小児医療費助成制度拡充、障がい児を持つ家庭を支援する放課後の居場所づくりについて所見を伺う。



子育てに優しい県づくりを

知事 いばらき三人っこ家庭応援事業の第二子への拡大は、事業成果や子ども手当の効果などを踏まえ検討する。また、健やかこども基金を活用した保育所整備を進めるとともに、平成二十二年度からは保育士の増員や特定保育推進などにより現時点での待機児童はおおむね解消できる。小児医療費助成制度は、今年十月から小学校三年生まで拡大。障害児を持つ家庭支援では、放課後児童クラブと放課後子ども教室の連携を進めるとともに、放課後の居場所づくり支援事業によりアドバイザー派遣などを行い障害児受け入れの円滑化に努める。

議員 内定率が極めて低い中、高校未就職者の就職支援策を強化すべきと考えるが。

議員 介護施設待機者解消策、利用者の要望を踏まえた施設整備及び在宅介護者支援体制に係る所見を伺う。

商工労働部長 研修・雇用一体型事業の募集人員を増やすとともに、県の臨時職員として採用し、企業での職場体験などにより職業能力向上を図り、その後の就職につなげるなど、様々な事業や国の制度を活用し就職支援に取り組む。また、産業技術専門学院では、新規卒業者訓練で追加募集を行うとともに、離職者訓練でも高校未就職者の受講が可能であり、今後も訓練機会が得られるよう周知に努めていく。

保健福祉部長 多床室などの要望を踏まえた整備方針の策定を含め施設整備に積極的に取り組む。

また、認知症サポーターの養成や地域包括支援センターにコールセンター機能を担えるよう市町村に働きかけるなど、家

農産物の国際ベリ―輸送の実現は
実現に向けて研究会で検討していく

本澤徹議員(自由民主党) 茨城空港から旅客機のベリ―(床下部)を活用してアジア諸国に地元農産物を届けることは、農家の収益向上につながり、空港の可能性を大きく広げる。農業協同組合との協力体制、航空会社や運送事業者との連絡など、ベリ―貨物輸送システムの検討状況と今後の進め方は。

企画部長 国際航空貨物輸送の実現のために、生産者や航空会社、物流事業者の課題に対して、農林水産部と連携して輸出セミナーや市場調査を行い、気運を醸成してきた。今後も取り組みを継続し、関係者の研究会で実現可能性を検討していきたい。

議員 鹿島灘海浜公園下海岸の侵食対策は、国土保全とともに海浜公園の魅力を保つことを国に強調し、整備費の確保に早期に取り組むよう求める。海浜の回復策として、鹿島港や大洗港区のしゅんせつ砂を戻すサンドリサイクルを提案する。

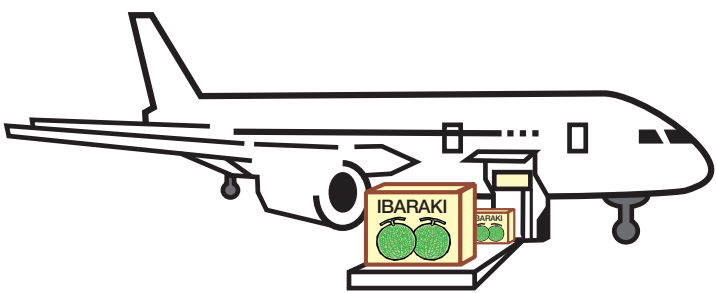
土木部長 平成二十二年度は既設ヘッドランド*から突堤を延伸するための調査を行う。サンドリサイクルについては、その効果を調査・検証する。

議員 児童の自転車通学安全の問題は、児童数の減少に伴う小学校再編統合により、どこでも起こりうることである。地域の実情を考慮し、自転車レーン確保や車の時間帯規制、コミュニケーションバスなどの活用、スクー

ルバス運行への国や県の支援の拡充など様々な視点から対策を検討し、早期の実施を望む。

教育長 関係部局による対策会議を開催し、通学路の見直しや危険個所の道路整備方策、交通安全教育の推進などを検討しており、その検討結果を着実に実施していく。市町村に対して、コミュニケーションバスなどの利用や新たな助成制度を活用したスクールバスの導入を働きかけ、児童生徒の安全確保の徹底を図っていきたい。

(ほかに、鹿行北部地域の将来像、家畜廃棄物の新たな処理、商店街維持への支援なども質問)



旅客機のベリ―(床下部)で農産物を輸送

※【ヘッドランド】…砂浜を安定化させるため、長い砂浜海岸に作られた人工的な岬。鹿島灘海岸のヘッドランドは、約1km間隔に整備されているが、周辺は沖に向かう水流が強い。ため、立ち入り・遊泳禁止となっている。